

市民まちづくり会議・むさしの 令和 2 年度第 3 回定例会記録

日時：2020 年 11 月 13 日（金）19 時～21 時

場所：吉祥寺商工会館 3F 消費生活センター講座室

出席：青木、内門、河田、篠原、竹山、田中、中島、西村、南、村井（敬称略、50 音順）

計 9 名（定員内）

1. 最近の新型コロナへの対応動向と意見

新型コロナ禍の近況について会員それぞれの近況を報告。リモートによる生活が今後どのようになるか、街ににぎわいが戻っているが、動向がきになる、コミュニティは対面でなければ成り立たないなど意見交換が行われた。主な報告は以下のとおり。

篠原：都市マス改訂に向けて 10 団体のヒアリング結果がまとめられた。（配布資料①「コロナ禍に関するヒアリング結果」）資料中アンダーラインは策定委員が注目した部分。（主な注目ポイントを以下に列記）

〈出張座談会〉

住環境：健康な高齢者の居場所を考える必要がある

道路・交通：自転車の空間整備が必要

緑・水・環境：住宅地の公園や少し規模の大きい公園の重要性が高まっている

にぎわい・活力：商店街は非常に厳しい現状／人と人のつながりが重要と認識／会社員や大学生が減りにぎわいや交流がなくなった／外国人が明らかに減った／現役世代が地域に定着し、まちを良くしていこうと思う人が増えると期待がもてる

〈事業者ヒアリング〉

将来像：コロナにより加速度的に変化／将来が大きく変わったということではなく、以前から言われていることが前倒しになった。

・都市マスの策定委員会が開けず完成が遅れるため、住宅マスタープランは都市マスとは切り離して先にまとめられる。

・仕事は Zoom で行っているが、対外的には相手に失礼にならないかとの危惧がある。

・出張がなくなり仕事の効率は良くなったが、現場に関しては行かざるを得ない。

村井：会議はリモートで行い、現在も順番で在宅勤務をしている。Zoom 会議では、大人数になると発言が抑えられてしまう活発な議論ができない感じがする。

・けやきコミセンは、徐々に活動をしているが、飲食は禁止のまま。密にならないよう会議や講演を複数の部屋で行う工夫をしており、このやり方により小さな館でも集会等が可能になった。

・11 月 8 日にエコ re ゾートがオープンした。（配布資料②「むさしのエコ re ゾート」パンフレット）コロナにより人が集まらず十分な準備ができなかったり、派手な開館イベントもできなかったりであったが、この施設のあり方としては、小さく始めて変化していくことが重要なので、これでよかったと思う。

青木：けやきコミセンの「けやき塾」で「能」についての（ご子息が）講演を行った。リモートにより二部屋を利用し、大人数が見られてよかった。東町コミセンも今後の検討材料である。コミ研連（コミュニティ研究連絡会議）では、春までに、Zoom 会議のガイドラインを作成する予定。

・コミセンでの利用制限等は、一部利用緩和の動きもあるが、コミセンによりまちまちである。

・コミセンの中には、文化祭の開催や東北支援のフリーマーケットなどを実施しているところがある。

- ・中央南町コミセン、東町コミセンではふるさと歴史館の企画展示の巡回展示を企画しており、武蔵境が遠い地区にとっては良い企画だと思う。
- ・東町コミセンは、11月26日のついでに「平和実行委員会、今年度の活動について」を小餅友子氏に話していただく予定。
- ・コミュニティ評価委員会は12月に市長へ答申を提出する。

西村：南町コミセンは少しずつ開きつつあるが、ホールを開けてもまだ、利用は少ない。

田中：田中：大学の授業はリモート。卒論の個人指導、教職課程の学生が学校で教育実習を行う際の訪問指導の現場は対面で行っている。

- ・リモート授業では、人に会うことがなく意思の疎通が難しい。また癒しとなる隙間の時間がないため、仕事を楽しめない。
- ・学会は距離の壁を越えて、遠隔地の人と頻りに話ができる。
- ・森を育てる会の活動は、通常に行っているがコロナ禍のため学生の参加がない。シンポジウムは開けない状況。
- ・ジモッピーネットの会合は20名の参加で行った。

中島：境南コミセンは工事で閉館中。地域の集まりは出来ない状況。

- ・仕事では、対面ではなく、メールで気軽に頼めるため忙しい。裁判所の仕事も遅れている。
- ・職場へは時差出勤をしているが、今後仕事量を減らす方向でシェアオフィスにすることも考えている。

竹山：リモートでピアノは教えられない。また、県外から生徒が来られないため無収入となっている。

- ・この状況では、老人会の研修旅行ができない。
- ・年寄りには動きたい人が多く、宮沢賢治の朗読劇を企画したら30人が集まった。

河田：商店街はステイホームの時期が一番大変だった。現在は人が戻ってきた。商店街は、3つのお寺の借地のため、コロナ禍の地代交渉をしているが、将来どうなるか心配している。

- ・学生の居場所として、スタバが人気。
- ・日経新聞に立川で、オフィスシェアオフィスに改造している記事があった。吉祥寺には井之頭公園の環境があり、近場で仕事ができるシェアオフィスの需要があるのではないかと思う。
- ・福生で子どもが親のスマホで勉強しているということ聞いた。IT環境について日本の遅れている弱点の現れだ。

内門：神代植物公園など屋外での行動を中心にしている

- ・正月に長男家族が帰省するので気をつけなければと思っている。

南：来週対面授業を予定していたが、最近の感染状況で遠距離通学の学生にリスクがあるため、リモートに変更した。学内では教室の融通など調整が大変でつかれた。リモート授業は学生によって差がある。

三浦：（メール資料を配布）会議で話題としたのは以下の内容

- ・ガーデニングブーム再来で園芸店は忙しい
- ・公園利用者が爆発的に増えている
- ・武蔵野市の緑の市民講座は4回のうち2回をオンラインで開催できるかというところ
- ・他の自治体の講座には区部より多摩エリアのほうが慎重

2. 住宅マスタープラン関係報告【篠原、内門】

- ・11月末のパブコメ(意見募集)に向け、バタバタと中間まとめを行っており、委員に性急な内容確認や修正意見が求められている。（配布資料③「武蔵野市第四次住宅マスタープラン中間まとめの概要」）
- ・理念、目標は以前と変わらず、基本方針では「高齢者、若者・・・」を「誰もが・・・」という表現に変更した。
- ・大きなポイントとしては、重点施策に、セーフティネット策を講じることと、マンション対策の2軸を掲げたことである。

今後、前者の関連では、国のセーフティネット法に基づいて、市と宅建業者などの市場関係者による「(仮称)あんしん住まい推進協議会」の設置が行われるが、住宅困窮者に対しては情報提供を中心とした支援が中心となるだけで、新たな家賃補助等を設ける予定はない。

- ・住宅セーフティネットの一環として公営住宅を増やす計画はなく、耐用年数である70年間まで、長寿命化計画に基づき維持管理を続けて利用することとなり、このために長寿命化計画が設けられている。福祉住宅は個別状況をみながら対応していく方針ではあるが、市としては費用負担が重たいことから、増やすことには消極的である。現行の公営住宅は耐震基準を満たしているとのことである。
- ・後者のマンション対策は、区分所有法に基づく管理組合と総会によるマンション共用部や敷地の維持管理が高齢化等により困難となり、マンションが荒廃する事例が全国で出ていることから、マンション居住者が多い武蔵野市として、このような状況が顕在化しないように、重点施策として位置づけたものである。現状においては資金的な支援ではなく、管理組合に対する情報提供による支援が主である。
- ・今回から政策をモニターできるように、成果目標と指標、観測指標を設け、施策の効果を評価できるようになったことは、大きな進歩と言える。
- ・共同住宅のうち、賃貸住宅についてはマンションのように複数の区分所有によるものではなく、家主の意志で賃貸棟の維持管理方針を決定でき、市場原理によって経営されるものなので、耐震化の促進以外の施策は、住宅マスタープランでは対象としていない。
- ・アパートなどの賃貸住宅の維持管理が悪く荒廃した場合、居住者が共同住戸に誰もいなくなれば空き家等として空家法が適用可能となるが、一人でも住んでいれば対象外である。そのような賃貸住宅が出てきても、行政として介入できるのは、公衆衛生法令などに抵触する場合だけと考えられる。
- ・第4次住宅マスタープランは、11月中旬にパブリックコメントを行い、委員会は最大でもあと2回程度の開催となり、3月には庁内了承がとれて完成し、4月1日から施行することになる。

※その後、市のウェブサイトにて意見募集の案内が出された。募集期間は12月4日までで、資料は市役所案内（配布のみ）、住宅対策課、各市政センター、各図書館、各コミセンで配布・閲覧可能。

http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/public_comment/boshu/1030563.html

3. 境山野緑地の保全について【田中】

ナラ枯れについては行政から議員へのポスティングを行った。

- ・最近の調査では、カシノナガキクイムシ（以下カシナガ）だけでなくヨシブエナガキクイムシ（以下ヨシブエ）がみついている。ヨシブエは、カシナガとフラス（穿孔から出る木くずとフンが混じったもの）が違う。
- ・独歩の森の更新を早める提案をしているが、今年度できるかは不明。
- ・更新に備えてどんぐりから苗を育てる苗床の増設を提案しているが、今後の調整が必要となっている。

4. 外環関係の状況、地価空洞化の問題【西村、村井】

調布市の道路陥没について、新聞が大きく報じている。（配布資料④-1 新聞記事コピー「東京、朝日、赤旗」）外かん道について新聞がこのように大きく取り上げたのは、初めてだが、報道により差があり、Fテレビの報道は酷い。調布市民はこの問題について毎日 Zoom 会議を行っていて、それを毎日視聴している。

- ・車走により地質調査をしているが、5mより深いところはわからない。
- ・武蔵野市長から国と工事業者に要請が出されたが、ソフトな内容だ。（配布資料④-2「東京外かく環状道路（関越～東名）工事における安全性の確保について（要請）」）武蔵野市議会も検討中である。
- ・事業者は事実の公表が遅く、説明会の評判もよくない。
- ・空洞や土砂の取り込み過ぎかどうかの調査など、国の本気度は薄い。

- ・テレビの報道によれば、200m間隔のボーリング調査データをもとに事業を進めているというが、大深度地下に変更する前の高架道路の設計のための調査だったようだ。
- ・大深度地下に変更するにあたって地歴調査をしていないのは問題。
- ・テレビの報道では、被害者が因果関係を証明しなければならないと言っている。大深度法の不備があるとすれば、工事の再起動前に大前提の確認が必要ではないか。

【上記テーマに関連した配布資料】

⑤-1 チラシ「第 64 回むさしの地区外環問題協議会学習会『事業評価について』11 月 20 日 14 : 00 南町コミセン地下ホール

⑤-2 チラシ「外環道・陥没事故の緊急報告集会」11 月 20 日 18 : 00 南町コミセン地下ホール

武蔵野市地上部街路話し合いの会中間まとめについては、動きがない。

【上記テーマに関連した配布資料】

⑥-1 令和元年 6 月 24 日外環特別委員会資料「吉祥寺東町二丁目地域周辺の交通量調査について」

⑥-2 同上別紙資料

5. ①市民が懸えるプレイス西通りをつくる会の状況【中島】

市民提案（配布資料⑦「幹線街路」3・4・27 号の都市計画変更を求める具体的提案）と担当課の回答を揃えて、会のメンバー（6 名）が市長、副市長と 12 月 1 日に面談する予定。担当課の回答は開示要求を行い来週開示される。市民と行政の両論があってはじめて議論ができる。

- ・幹線街路を区画街路に変更する提案で今年中に決着させたい。
- ・法の適合は確認しており、市の計画行政としても第 6 期長期計画の交通計画に適合している。
- ・市の道路初めての都市計画変更となり、補助金返還の必要はなく区画街路化は手法としても有効だ。

【提案書についての意見等】

- ・提案趣旨の字体はフォントを変えると読みやすくなる
- ・観音院のブロック塀は倒壊リスクだけでなく景観的なマイナスもある。（P11⑬）
- ・空間的な結合については、駅の南と北の結合も加えてほしい。（P12⑭）

②情報公開の実務的な問題【中島】

今回の開示請求情報は、審議・検討中の情報であり、非公開情報の規定には含まれない。最近の事案では情報公開審査会の再審査で非公開が覆されることが多い。市民と行政は、お互いの情報共有が必要で、情報公開請求は役に立つ手法である。

6. アベノマスク、リサイクル【竹山】

- ・第 2 回定例会の呼びかけにより、出席者から家に眠っていた多数のアベノマスクが集った。小さいマスクをほどこき利用可能なマスクに再生する。

その他の配布資料：

- ・チラシ「脱原発と平和を求める市民デモ・第 96 回」11 月 15 日 13 : 00 吉祥寺西公園集合
- ・映画チラシ「子どもたちをよしく」11 月 28 日 13 : 40 武蔵野公会堂ホール
- ・チラシ「むさしの市民平和月間 2020」11 月 23 日 11 : 00 ピースウォーク（武蔵野中央公園旧変電所跡集合）

第 4 回定例会：2021 年 1 月 15 日（金）19 : 00～ 吉祥寺商工会館 3F 消費生活センター講座室

以上／記録作成：村井寿夫）